

びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会 第3回会議 議事要旨

1. 開催日時および場所

令和5年1月19日(木) 10:00~12:00

滋賀県立美術館木のホール

2. 議事要旨

(1)開会 滋賀県新駅問題・特定プロジェクト対策室 松田主席参事

(2)議事

議事進行は、委員長により行われた。

①議事(1)第2回検討委員会まとめについておよび(2)改定版将来ビジョンのとりまとめについて事務局から、資料に基づいて説明を行った。

【村上委員長】

ありがとうございました。今日は最後ということで、この資料4の文化公園都市将来ビジョンの案も含めて、事前に皆様も御覧いただいていると思いますので、先ほど説明いただいた内容も含めて、ぜひこういうキーワードを付け加えた方がいいのではないかとか、あるいは、委員会が動いている中で、滋賀アリーナのオープン以降の動向の変化が観測されたという、今までとは少し違う情報も含まれていますので、そういうことも踏まえて、ぜひ将来ビジョン改訂版の仕上げということで、様々な御意見をいただければと思います。

これだけとはか、気がついた点とか御発言したいということがありましたらいかがでしょうか？ あるいは今日はとにかく最後ということですので、お一人お一人に何か御発言いただくということでも結構かと思います。

特になければ、順番にお一人ずつ御発言いただければと思います。それでは、まず皮切りに築地委員いかがでしょうか？

【築地委員】

今の説明全体に対するコメントということで、よろしいでしょうか。

【村上委員長】

資料4には詳細も書かれていまして、今日たちまち細かいところまで全部というわけにはいかないと思いますが、もし事前に御覧になった範囲でも結構ですし、お気づきの点と

かですね。細かくここはこう直した方がいいというようなところから、全体を俯瞰しての御意見でも結構です。

【築地委員】

どのように皮を切ったらいいかちょっと悩んでおりますけれども、まずこの資料にコミュニティを育む場という考え方を入れていただいたということは、現実を捉えてやるべきことを入れていただいたと理解しております。

それから資料4の「び文会議」を設けて、運営を機能強化していくという考え方自体は素晴らしいですけれども、これを見ながら、誰が具体的にリーダーになるのかとか、それからそのリーダーはどういう力を持った人なり組織がリーダーなのだろうかなどということをイメージできずに聞いていました。ここがポイントになるような気がいたします。それとどういう指標を設けるのかということは、深く関係すると思いますので、例えばその不動産関係に強い企業がリーダーになるとすると、それに対応した指標ということになるでしょうし。

その組み立てと戦略的な運用というのが、かなり重要な課題として出るのではないのかと感じました。俯瞰的に見るとそういうところですよ。

【村上委員長】

ありがとうございます。リーダーを誰が担うのかということと、それがこのPDCAを回す際の指標に大きく関わるとのことですよ。

ハード面では、その利便性を改善すべき余地はまだ残されているのではないかという御指摘をいただきまして、ありがとうございます。

仲川委員いかがでしょうか？お願いします。

【仲川委員】

こんにちは、仲川でございます。

瀬田東学区自治連合会で先日定例会がありまして、自分達のことについて何か活性化するために御意見がありますかということで、15人の自治会の方にお伺いしましたが、一番あるのは公共交通の問題ですね。瀬田駅からのバス、あるいは途中からのバスの本数が非常に少ないということを言われております。

それから、食べもの屋さんがない。どこかへ行くのだったらゆっくりしようと思うと、子供たちとかでしたら広場で遊ぶだけでいいのかもしれないけれども、恋人同士で行くとか、それから家族で行くとかになってきますと、お昼になったら食事もあるし、食べるところがないから結局お昼になったら違うところに行かないというような話が多く出ていました。それと話が飛ぶかもわかりませんが、いぶきスポーツパーク・ビッグブレスという

民間施設があるのですが、ここがどういう形で成功しているのか、いないのかというのは分かりませんが、フットサルであるとかテニスであるとか、それからいろんなアクティビティであるとか、それからフィットネスですか、そういうことをやっておられるということで、結構同時に多くの方々がおられると。そこでサッカーのグラウンドがあるらしいですね。最近、サッカー熱がワールドカップで上がってきていますけれども。

そのサッカーの会場を取るというのは、非常に難しいという話を言っておられました。できれば、ダイハツアリーナの中で、サッカーの試合が出来るような施設があるのかどうか、借りるためにはどうしたらいいのかということについても、お知らせが発信されていないので、サッカーをする人たちにとっては、ただ県立アリーナが出来ただけという認識しかないのも、もしサッカーが出来るようであれば、しっかりと発信をしていただきたいのと、それから私も若い時サッカーをやったのですけれども、土のグラウンドでサッカーをするのと、芝生のグラウンドでサッカーをすると全く違います。球の滑り方であるとか走り方であるとか。滋賀県では土のグラウンドで練習していましたが、大きな大会も京都とか大阪とか行きますと、ほとんどは芝生のグラウンドになるわけですね。そういったところで試合を常にやっている人間と土のところでやっている人間と学校ですと、公立学校のグラウンドでやっている人間ですが、もうそこで差がついてしまう。今は芝生になったとかいう話もお聞きしたりしますけれども、強いところしかそういう形で試合ができない。だから、せっかく出来て使えるものがあるのであれば、このダイハツアリーナですね、ここで使わせてあげてと思います。

それから、コロナ前ですけれども、3年、4年ほど前ですかね、瀬田の森夕涼みフェスというのがあったのを御存知の方もいるかと思いますが、3年間ほど西の駐車場、一番西の駐車場のあの大きい広場ですね、今度バーベキューができるということですのでけれども、大きい広場で約1,000人から1,500人ぐらいのお客さんが来られて、瀬田東学区の団体の人がブースを出して、焼きそばであるとかそういうものを10軒ぐらい出しておられたと思います。そこに龍谷大学や東大津高校であるとか、瀬田北中のブラスバンドであるとか、そういう人が来られて、あとカラオケされたとか、いろいろな催事をされて、そして朝9時か10時ぐらいに準備が終わるのかな、夜は8時9時まで風船を飛ばしてとかいうようなことをされていました。その時に感じたのは、駐車場が全く取れないということで、せっかくそういう催事をしているにもかかわらず、駐車場に止められないからもうスルーしてください、入れませんというような形の多くの台数を断っていたということがありますので、公共交通が揃わないのであれば、まず駐車場ぐらいはしっかりしよう。

今、グラウンドゴルフをやっておられるところが少しありますけれども、あの駐車場の北側にあの辺りだけ、極端に言うとなつぶしてでも駐車場にしてしまうとか、グラウンドゴルフができる場所は今度県立アリーナの方へ持っていくとか、そういうような施設内の総合利用ということをお教えるか、考えてやっていかないとはいけません。

それから、学生に聞いたのですが、なんで図書館使わへんのやという話を聞きました。そうすると、よく出た意見に専門書がないと。それだったら図書館行くよりも自分の大学の方が専門書揃っているから行く必要がないということも言っておられました。

借りると、返しに行かないとだめですね、当たり前のことですけども。返す時にもっと便利な方法がないのかということで、例えば、フォレオの中に図書館の本を返すボックスを作るとか、公園の中央にも駐車場がありますので、あの駐車場のどこかに図書館の本を返すドライブスルーのようなボックスを設けていただくと、私らでも孫の本を借りに行って返そうとする。返しがまたあの駐車場に止めて、あそこまで歩いていく、どこかにあるのか知りませんよ、知らないですけども、あくまで図書館まで行かないといけませんね。それが億劫です。それが車でどこかにポンと返せるような状況になってくると、もっと図書館の利用度が上がってくるのかなと思います。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。

これから将来ビジョンのもとに、特にそのハード面、機能強化といいますか、最適化といいますか、そういったところを詰めていく必要があるかと思いますが、短期・中期長期、それぞれかかりますけど、交通に併せて駐車場、アクセス問題、サッカーをはじめとする人気スポーツで盛り上がる可能性のある多面的なグラウンド芝といったようなハード面のさらなる改善の具体案をいただきました。加えて、食べ物屋さんもあった方がいいだろうということ、図書館に関しても、少し運営方法の見直しで使いやすい図書館の在るべき姿というもの。御提案ありがとうございます。

それでは平尾様、いかがでしょうか？

【平尾委員】

こんにちは、大津市の平尾と申します。

前回、所用で欠席しまして、今日出席しております。あらかじめ資料も拝見しましたが、まずもってここまで精度の高いビジョンをお作りいただいたことに敬意を表します。

次の段階に行く「び文会議」のところが、これからは気になるのかなと思います。ビジョンとしてテーマ作ったものを実際に動かしていくということで、ここの機能が大変重要になると思います。そこは来年度以降の担い手の方に託すとして、今回ビジョンの中でインジケータ、指標を示していただいて、29ページを見たのですが、18番に小中学校の校外学習が実施された数というのが指標になっていて、実際知らないのですが、県内県外含めこのエリアを校外学習として利用されることが徹底されているのか、もし、されているとしたらそれがよりこういうことを契機に広がるといいなと思います。やはり、これから未来という将来を考える中で、小中学校の時に訪れた子供さんたちが親になって、また次の子供

も自分の子供と来るとか、そういうことがきっかけになるようなことの取組、次の未来を考え、未来会議という中では大事なポイントかなと思いました。

まずは、子供さんにこの場所を知っていただく、それで大人になって、また自分の子供を連れてくる、そうやって広がっていくことが、これからこのび文都市の活性化に繋がることだと思います。ちょっと言葉が足りませんが、感じたことを述べました。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。

重要な御指摘をいただきました。資料29ページですね、資料4です、このび文会議のPDCAのサイクルを回す上での指標、インジケーター、この中でもいろんな指標がある中で、特に18番の校外学習、小中学校の校外学習の実施というのが、これは将来に向けた布石となる、要するに小学校のある一定の学年で必ず行く、あるいは大津市、草津市あるいは県だと言い過ぎかもしれませんが、少なくとも大津市草津市の小学校中学校の生徒さんが全員一度は必ず来て、楽しい思い出を作って帰っていくとなれば、これは将来その生徒さんたちが親の世代になった時にまた戻ってくる。さらにその子供たちの世代もということでこの「び文」の存在意義というものが、大津市民、草津市民あるいは滋賀県民に共有され、受け継がれていくのではないかと、そういう意味で指標は非常に重要ではないかと。どうもありがとうございました。

それでは松田さんいかがでしょうか？

【松田委員】

先ほどの説明の中で、資料3でのアンケート結果を見ますと、アリーナができたことによってこれだけ大きな変化があるということで、一つメンバーが増えるというのは大きいことだなと改めて思いました。その意味では、資料2のところのビジョンで、今までの施設だけではなくて、プロスポーツであるとか、公共交通の方が加わるというのは、施設だけで行動しようかと言っているところに、実際の利用されている方、あるいはどういうふうに来られるかという視点が盛り込まれることとなりますので、そういう意味では広がりがあるというか、いい形になっているのではないかなと思いました。

指標の方が、先ほど築地先生もおっしゃいましたけど、どうやってそれをずっと見続けるかというところが、一人の人がずっと見られるといいのですが、どんどん変わっていく中で、どう見方を維持するか、あるいはどういうふうに進んでいるかを捉えるというのは、なかなか難しいところではあるかなと思いますが、みんなが一緒になってやるというところが維持できれば、誰かがというよりはみんなで作っていくというその盛り上げを立ち上げの時に特に頑張って仕込んでいかないといけないのかなと感じました。

【村上委員長】

はい、重要な御指摘いただきました。

私は後で指摘しようと思った点はまさにおっしゃっていただいた、この「び文会議」のPDCAサイクルを回していく、そして誰がというところで、確かに各領域のリーダーシップを取られる方が担われると思うのですが、少なくとも限られたクローズドなものになってはいけないということで、共有されるみんなが一緒に考える、共有しながら手法を見ていくという、そういうことでこれを確実に未来へ継続していくという御指摘をいただいたと思います。ありがとうございます。

はい、では黒澤さんいかがでしょうか？

【黒澤委員】

びわこ文化公園都市はクラスター開発が特徴の一つであろうかと思います。クラスターは一定の塊ごとに分散させている一方で、まとまっていると固まりやすい、他のクラスターとなかなか繋がりにくいというところがあるかと思っています。どうしても物理的に閉じやすい構造になっているので、それをいかに繋ぐか、繋ぎ続けるか、そういう工夫がより重要になっているかと思っています。

そのために、例えば隣の施設に中からだとちょっと歩いてすぐに行けるはずなのに、車で外からぐるっと回らなければならず、中から歩いてすぐに行けるような状況になっていない。公共交通の議論がよく出ますが公共交通だけではなく、歩いてもっと行ける空間というか、楽しめるというか、そういうゆとりもある空間だというのが、びわこ文化公園都市の特徴なのではないかと思っています。

滋賀ダイハツアリーナが出来たことによって、人の動きが出ているということだと思いますが、新たに出来たアリーナはいろんなことを繋げられる位置にありますし、もちろん人の動きとか含めて、いろいろポテンシャルが感じられるところだと思います。

以上でございます。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。2点の御指摘をいただいたと思います。

「び文会議」の中でいくつかのセクションに塊として閉じてしまわないように、お互いそれぞれの分野といいますか、それぞれのテーマ・コミュニティごとにその塊が緩やかにオープンで繋がるということが重要ではないかという御指摘ありがとうございます。

もう一つ御指摘いただいたのが、おそらく回遊性の向上ということだと思いますね。このび文公園都市の中には、いろんな非常に魅力的な施設があるけども、たいていは駅との間の往復にとどまっているところを、歩いて楽しく回遊しようという御提案だったと思いま

す。そういう意味ではハード面でも、歩いて楽しい街路舗装や並木など、様々な要素を貼り付けるといことも必要ではないかという指摘にまで発展するのではないかと思います。どうもありがとうございました。

はい、それでは今日の草津市の岸本さんいかがでしょうか？

【岸本委員(代理出席:森下委員)】

代理出席しております森下と申しますよろしくお願いいいたします。

一点だけでございます。今回、PDCAサイクルを取り入れていただきまして、我々もよく計画というのを役所は作りますけれども、絵に描いた餅にならないように、PDCAサイクルを回しながら、より良いものを、そしてその実現ということで進めていくわけでございますけれども、今回指標を設けていただきましたけれども、実際に目標値の設定ですね、どういったところを目標値にするのか、その数字ですね。そういうところが大事になってくると思いますので、今後の課題になるかとは思いますが、しっかりとした根拠のある数値を入れていただくことが大事かと思っておりますので、意見として言わせていただきます。以上でございます。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。

まさにこれからのまちづくりや都市計画においても、この目標数値を明確にして、いかに達成できたかを継続的に評価して、それを次の改善やニーズに結びつけていくというエビデンスデータベースといいますか、そういったことが議論されるように、まさにその重要性について御指摘いただいたと思います。ありがとうございます。

はい、それでは清水さんいかがでしょうか？

【清水委員】

草津市南笠東学区まちづくり協議会長の清水でございます。よろしくお願いいいたします。

今のアンケートの結果、12月1日に滋賀アリーナがオープンしたということにつきましての報告がございます。これを見ていると、本当に多くの方たちが御来場いただいていることを考えますと、このイベント等が多く開催されることによって、売り上げが出てくるのではなかろうかと思えます。

先週日曜日にバスケの試合があって、駐車場から出るのに30分かかったという。今も来る前に少しアリーナの方に寄せていただいて、状況を聞きましたら混雑していたということで、駐車場とそのテニスコートを含めて900台ですか、止められるようでございますが、入り口が2か所で混雑していたようなお話も聞きました。たまたま私の娘が行ってい

まして、出るのに30分かかったと言っていましたので、その改善も少し考えていただきたいなということもございます。

先生が言われたように、19ページ、18ページですか、びわこ文化公園都市の目指す姿という形の中で、一番上のですけども、中にありますように、制度的に拡充策を探っていく運動としてそういう位置づけということですが、立地施設、機関および関係団体等は自ら課題を抽出・共有し、解決に向けて主導的に行動すると書いていますが、誰がするのかということになります。

ここに我々いろんな団体がございますけれども、その中で誰かが所属を持った中でやっていくのと、そしてもう一つには持続可能ということもございますが、イノベーション的などう変えていくかということも大事なかなと思いますので、そのことも踏まえてどうかということも思います。

もう一つは、全体的に見た時に、10年経ってこの検討委員会をしておりますが、この先の10年はどうなのか、この文化都市公園という形の中でも10年先はどのような方向でどんな形になっていくのかというような形を県民に知らせることも大事かと思えます。

この検討委員だけではなく、PRですね。今日の新聞にありましたように、ヒワイチのPRに62万円ほどお金を県が出しているのですが、どこが出しているかわからなくしてPRをやっているようでございまして、でも実際は県が出しているお金だということです。民間がしているように見えるようなコマーシャルということでしたけども、同じようにPRして、そして来ていただけるかということも大事かと思うので、ここでお金だけでは物事は進まないし、言葉でたくさん書いていますけども、こういうことも踏まえた中で、いかがかなと思います。

あと、食事をする場所がないと書かれていますね、あればいいのにとということで、ここの美術館も前は2階にレストランがございましたが、今はなくなって、今はその1階で軽食的なものを出せるというのを先ほど聞かせていただきました。

アリーナにも一応スペースはあるのですが、入居するのは民間かわかりませんが、まだ決まってない、出来てないという話でございましたので、大事なのはここに来てお弁当を持ってこないといられないのではなしに、近代的な行きたくなるようなレストランのようなものを作っていただくのも大事かと思えますので、一つよろしくをお願いします。

19ページですかね。私どもの平野南笠線のことを書かれています。これは取組の方向性ですね、この中で短期と中長期がありますね。短期はいつまでか、中長期はいつまでかということをもう少し示された19、20ページですね。一番上に書いてはいるけれど、いつまでというのは書いてない。項目はたくさん書いていますが、その中でいつまでこれをするかということもある程度示せば示されたということになりますので、それも一つお願いしたいと思えます。

【村上委員長】

多岐にわたる御指摘ありがとうございました。

まずハード整備というか、運営改善ということで、アリーナ駐車場周りの混雑状況からもう少し改善の余地があるという御指摘や、バスの利便性、食べ物屋さんといったような来訪者の回遊性や、滞在性を増やすような取組が必要だという御指摘、それから組織に関しては、PDCAサイクルをそこで誰が担うのかということと、こういった将来像を立てているけども、それぞれをいつ誰がいつまでに実現するかという具体的な行動計画も必要ではないかという御指摘でした。

いろんな御指摘として、情報発信が大事であるということです。この会議体でのビジョンも、この中では盛り上がっても、これを例えば滋賀県のホームページでちょっと出すぐらいだと、これは誰も見てくれないのではないかというお話で、この辺りも情報発信、これをせっかくまとめようとしているものですね。大々的どうやってPRするかというのを考える必要があるという御指摘をいただきました。ありがとうございます。

はい、それでは岡井委員お願いいたします。

【岡井委員】

既に多くの方から御指摘いただいているので、少し重複するところがあると思いますが、本日アリーナができて以降の状況をアンケート結果の方で見させていただくと、県外からの方がやはりたくさん来られるような施設ということがよくわかりまして、ある意味今後が期待できるなという一方で、単に外から来た人がアリーナだけ来てまた帰るということだったら、この地域にとってほとんど効果はないと思いますので、アリーナ効果をいかに地域の中で浸透させていくのかというようなことが非常に重要ではないだろうかということを感じております。

そうすると、県外から来られる方、もちろん車で来られる方もいらっしゃいますけれども、公共交通をもっと充実させることはもう必須事項になっているかと思ひまして、これまでのような駅と施設という点を繋ぐのではなくて、先ほど委員長からも言われましたように、その回遊性がないことが、まさに明白になったかなと思ひておひまして、せめて施設へは一旦駅からこのエリアに来てもらわなければいけないので、何て言うのでしょうか、点を繋ぐまず公共交通があって、今度このエリアの中での循環のような施設間をうまく繋ぐような公共交通というものを別途考えるのか、その駅からの連続で考えるのか、どちらでもいいかと思うのですが、そのあたりを周遊できる交通ネットワークを充実させる必要性がある。以前に店舗であるとか、地域の他にも飲食店だけではなく、他にも寄れるような施設があればそういうところを積極的に回遊するコースの中に組み込んでいくような、何かそういう検討も必要ではないだろうかと思ひました。

また一方で、このエリアの中を歩いてもらったらいんじゃないかと、もちろんそれは非常にいいことだと思いますが、歩くといっても多分距離的に限界はあると思いますので、もっと楽しくこのエリアの中で時間を消費するような手法というのがあるかなと考える時に、手軽な乗り物としては、シェアサイクルですか、自転車レンタサイクルもそうですし、最近キックボードなんかも流行っていますので、むしろそういったものをうまくこのエリアの中で導入すると、一旦駅から来ていただいて、その中では施設間で乗ってはそこで止め、また次の施設を利用して、その後また乗ってというような繰り返しの行動、交通というか移動が出来るようになりますので、何かそういった仕掛けがおそらく必要なのかなと思います。

そういったことが、この取組の中の資料4の26ページのところが、その移動の自由というところなので、その辺りに書いてくださっているのかなと思っていたのですが、これだけ見ると、今までの結局点と点を結ぶものの本数ルートを考えますよとか、あまり連携する方には私の読み方が悪いのかもしれないけれども、あまりそういうふうには見えないことから、せめて何かシェアサイクルの話とか、そういったことが出来れば、その取り組み例として入れていただいてもいいかなと思いました。

あと、もう1点の方は、皆さんからの御指摘ありますけれども、せっかく計画を作ってもそのまま放置するのだったら、何のために作るのかということで、実現が大事という点ではこの「び文会議」というものが非常に期待されるわけですが、28ページの方でそういったことを書いてくださっているのだとは思いますが、あの組織はきっと出来るだろうとは思いますが、組織の中で連携して何が出来るのだろうかと考えた時に、あまり関係者間での連携の将来像というのが、この資料4からは非常に見にくいという印象を受けていました、それは多分各パーツですね、20ページ以降の取組例のところ、そういった例えばこういう主体とこういう主体が一緒になってとか、何かうまく書いてくださるとなんとなく連携する可能性があるのかなという感じですけども、あまり見えないというのが印象でして、おそらくこういう行政の計画書というのは誰さんと誰さんが今後連携を検討しますと、検討だからまだ確定ではないけど、それでも何とかさんと何とかさんとか書くことによって本当にできなかったときにはまずいとか、そういうリスクを考えてあえて書かないというような事情もよく理解できるのですが、もう少しその連携の形が見えるような書き方に何とかならないかなと思っております。

そういう観点で見ると、その前半の方でこれまでまずはどういうことをしてきたのかというように前半の部分でいろいろと書いてくださっていて、例えば公共交通のところだと10ページですか、連節バスのお話があって、JRの南草津駅から立命館大学まで連節バスが2台導入されたと書いていますけど、これはもちろん大学にとってメリットだったわけですが、地域にとってこのびわこ文化公園にとって、何らかのメリットがあったのかなと思うと私は全くなかったのではと思ってまして、何かこういうことをここに書くべ

きことなのかな、その手の話をいくつ積み上げても結局このエリアとしてはよくないので、はというようなことも感じています。

そういう意味では、コミュニティというのが重要な観点になると思いますが、下の地域コミュニティのところでも、何か地元住民がこんなことをやっているの、これを今後も維持再生頑張っていくと書いていますが、これだとあくまでも住民だけが頑張りなさいねと言っているだけで、住民と他のこういう組織とか一緒になって、何か住民と一緒にこのエリアをこういうふうにコミュニティを作っていくというのだったらわかるのですが、今までどおり住民さん頑張ってねというようにしか読めなくて、もう少し連携というようなものが見えるような書きぶりになるといいなと感じました。

【村上委員長】

はい、ありがとうございました。

大きく2点、公共交通の充実ということと、この将来像をどうやって実現していくかというこの2点御意見いただきましたが、共通するところがあるかと思いました。

点と点を結び、あるいは主体と行動の対一関係という、従来の完結型の将来像というのはもう限界があるのではないか、そうではないのではないかということ。交通システムについても、このエリア内の循環回遊性向上ということ考えたこの多層構造の移動手段ということでは、手軽な乗り物も導入してもいいのではないかという、それと交通だけで考えるのではなくて、その移動する目的がないと人は行きませんので、途中で立ち寄れる多種多様な施設もそれ同時に考えなければいけないということですね。

従来の交通手段で、ここからここまでを確実に移動出来るようにしよう、ということに限らない、さらにその先を見据えた書きぶりをする必要があるという御意見です。

どうやって実現するかということについても、まさに共通するところは1対1の対応で解決するのではないか、ある団体さん主体さんがこういう行動をしましょうということだけを書き連ねても、それは限界があるので、例えば、ある主体さんとある主体さんが連携すると、こんなことが、さらに新たな可能性が見えてきますよということが確実に起こるように、ここでもう思い切って具体例を書いてしまっただけではいかかでしょうかというご提案でした。

こういったその主体間の連携が起きやすくなるような、特にこの20ページ以降ですね、取組の具体例のところ、やはり誰が何をやるかだけなので、誰と誰がどう繋がることで、こういう新しい取組ができることが考えられるとか、そういったこともぜひ書きましょうという具体的な御提案をいただきました。はい、ありがとうございます。

これまで一巡させていただいたのですが、もし他の委員の皆さんの御意見を聞かれた上で、もうちょっとここはさらに言っておこうとか、確認をしたいとか、言うことがありまし

たら、自由発言をしていただければと思いますが、いかがでしょうか？はい、築地さんお願いします。

【築地委員】

今、岡井先生がおっしゃったことを聞いて気づいたのですが、この資料4の組立のことで一つ提案があります。というのは、岡井先生のおっしゃった、要するに断片的なものが羅列されているように読めるという部分について考えると、これはこれまでこうであったことが書かれている部分のようですね。つまり目次で言いますと、「はじめに」があって、123までが過去の課題ですね。4からがこれからどうするという話になっているので、目次の立て方としては、「はじめ」の他に大きくローマ数字のⅠで、これまでの経緯と評価。4の前にローマ数字Ⅱこれからどうするという、そういう目次、つまり1部、2部に分けるような構成にすると、読み間違いが発生しなくなるかなと思いました。

読み間違いという言い方をしたので、それは不穏当な言い方で、読み間違いさせてしまうぐらいに分かりにくい構成になっているということだと思います。

もう一つ、その断片的な取組が羅列されているというところから、何を読み取るかというところが大事だと思うので、そのところも配慮したような内容にしていくといいのではないかという提案です。

【岡井委員】

すいません、ちょっと補足させてください。多分Ⅰ、Ⅱみたいにされる方が読みやすくなると思います。今の10ページのあたり、私が言ったので御指摘くださったと思うのですが、一応これ過去というのは認識しているのですが、何かこうこうでした、その後どうしますというような書き方として、例えば、10ページの草津PAと連携したというところも、何か検討に当たって何かが期待されるとか次の地域コミュニティのところもなんとかが重要となるというのは何て言うのですかね、過去のことだからこうするべきだと一応書いているのですが、その中も何て言うんでしょう、単体のことしか書かれていないということを申し上げたかったつもりですけど、私の表現が悪くて申し訳ありませんでした。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。

多分、これまで各種たくさん取組内容を総括されていて、今後も継続され、さらに充実される方向だというのは、期待感を持って書くことはおそらく必要だと考えられます。

岡井さん、築地さんの御提案というのは、さらにそれをこれまでの主体さんの取組はぜひ今後も頑張っていただきたいが、さらに後の連携をどうするのかということをもっとし

っかりと分かるように目次構成と、この内容、書き方での工夫で、そこをさらに分かりやすくこの将来像の冊子の中に書き込む必要があるではないかと御提案でした。

その書きぶりの工夫です、もう一つ章節の構成の工夫と、それぞれのその各項目の書き方です。特にキーワードとしては、これまではこうだった、今後もこれはこういうふうなことが発展の可能性があります。ただし、さらに主体間だけで完結するのではなく、さらに主体間の連携の中で、例えばこういうことが具体的に可能になるというのは分かりやすくしていただきたいということですね。

他に何かお気づきの点等はございますか？ はい、仲川さんよろしくお願いします。

【仲川委員】

先ほどから誰が主体になってするのかというお話もありましたですけども、そのことについて地域の方からお話をさせていただきたいと思います。自宅の方へ送っていただいた資料の23ページの「紡ぐ」というところです。この中に短期の取組例というところで、地域の住民、それから各施設、大学・高校・小中学校などが、連携した源内峠を始め云々と書いてありますが、地域においては、この現場等で当然のことながら管理をしていただいています。現在、瀬田東学区の文化振興会さんが源内峠も含めて、近くの遺跡について管理していただいています。はっきり言わせて長期的にはもう無理な状況が続きます。

なぜかと言いますと、担い手が全くいない。現在も来ていただいている会長の方が70代ぐらい、それからその前は80代の方ということで、10何年間も70、80代の方がずっとやっておられて、そしてその担い手というのはもうほとんど入ってきていない状況の中で、50年続いたらもう80、90になりますね。そこで地域としてこういった文化財の管理ができるのかと言ったら難しい、それから小学校中学校、高校にしても、これは地域の方が動いていただいて、初めて彼らが来て説明を受けてという形になりますので、根本的には地域の人たちのそういった活動でなければこういった遺跡についてはほぼ出来ないと思っていただいてもいいのかなと。

いろんなことを地域とともにという言葉がこの中にもビジョンの中にも書かれていますけれども、今、コロナでまずできていないということが一点。それから、例えば今日のニュースに出ていましたけども、コロナの分類が2類から5類に落ちるという話も出ていまして、春頃に万が一そうなったときでも、すぐに今の団体が動いていけるのかという、なかなかそういった部分が見えてこないわけですね。そうすると、他にお願いをするにしても、自治会も、例えばコロナが終わったら、自分たちで今までやっていた催事が事業計画として毎月ずっとあるわけです。その中で、次の自治会さんあるいは東学区の自治連合会さん、県や大津市とこういうことをしてもらえませんかと言われたところで、それをどこへ入れていくのか、どういう季節に入れていくのかということが非常に重要なことになってきます。

まず、人もいないような状況の中で新しいことをするということが、コロナが終わった時点で本当にそこへ食い込んでいける力が残っているのかどうかと考えたときに、地域と何々しますではなく、もう主導は公がしてもらわないと。それに私達が参加できるかできないか分かりませんよという状況の中でやってもらわないと、私達の今の状況では非常に無理があることを知っておいていただきたい。だから地域をあてにしない、甘えないでほしい。それはどうやって、何をしてもらったらとかそういうことではないですけども、そういう逼迫した状況にあるということをまず知ってもらう、言ったらやってくれるというようなことをされる、その辺は違うのかなと思います。

それから活動ですけども、ビワイチで自転車回っておられていますけど、そういうことについて、滋賀県でまた新しいスポーツができないかなと。例えばウォーキングありますね、ウォーキングをこの文化ゾーンでやるというのを一つの方法ですけども、長距離の場合はこんなところでは足りないわけです。そうすると、ちょっと離れたところまで、田上の方まで行くとかいうような形でこれをAコース。言ったら一番卓越した人たち、ウォーキングを本当に楽しんでいただける人たち、そしてちょっとそのランクを下げてくるとB、C、Dと子供たちも含めてあると思いますね。

そうしたB、C、Dのコースをここに作って行って、そして能力に合って歩いてもらう。このやり方を滋賀県から発信して、このウォーキング自体をスポーツ化するというやり方も一つの方法かなと。その発信を滋賀県から、あるいは大津市、草津市からでも構いませんので、やっていただくということをやってもらえたらなと思います。

草津の方にお伺いしたいのですが、その血液センター東側にバスのターミナル、それから道の駅ができるという話をお伺いしていますが、佐藤市長にお伺いすると、そういう話があるというようなこともお伺いしています。道や施設ができるということと、それからその前の県道湖南幹線がずっと草津が越えてそれから石部の方まで開通します、そして石山の方まで行けるようになりますね。そうなってくると、その交通量が1号のバイパスになり相当多くなってくると思うんですね。これを活用しない手はないかなと。そういった草津の施設をやっていただくということが、将来的にほぼ決まっているのであれば、またやり方が、そこを中心としたやり方もあるのかなと思いますので、その辺りはどうなっているのか、草津市の方に聞いてみたいと思います。

【岸本委員(代理:森下委員)】

草津パーキングを活かしたまちづくりということで、現在取り組んでおりますけれども、今は構想を策定している段階でございますので、いつからというのがこの場で正式に言える段階ではございません。また構想が策定できまして、皆さんに公表できる段階になりましたら、そういった情報を出していきたいなと考えておりますので、担当にもそのように伝えておきたいと思います。

【清水委員】

今、言っていただいたように、バスターミナルですね。高速道路のパーキングエリアと連携したバスターミナルを市として考えているということと、道の駅でございますけれども、そういうことも踏まえて、全体的な中で交通量が多くなってまいりますと横軸はたくさんですね、今言った山手幹線、立命館からずっと通っている道と高速道路等々ございますが、縦軸。琵琶湖の方へ向いての東西線は少ないですね。

その中で、平野南笠線という計画が立てられております。それについては9ページにも書いてありますように、実現という言葉がありますが、やはり必要ということ考えた中で、早期にこのことについて着手し、開通を望むところでもございますし、これも県の方にもお願いして、動いていただいているようでございますけれども、もう50年が過ぎました。本当に大変長く関わっておりますけれども、この文化ゾーンにいろんなものができて、交通混雑が予測されますので、その事を解消するには、横軸だけではなく、縦軸も考えて取組をしっかりとやっていただきたいので、よろしくお願ひしたいと思います。第2名神も少し遅れていますが、これも着実に工事を進めております。

もう一つ、イベントの中で、草津では9月にイナズマロックというものをしております。それで10万人のお客さんが2日、3日間で見込めるわけでございますけれども、そういうようなことを踏まえた中で、ここでいろいろなイベントができれば、その人たちがここに寄ってくれるという、その日は市内中の宿泊施設が満杯になるぐらいに多い人たちが来られます。

音楽関係ですので、ファンの方がたくさんお見えでございますけれども、どんなことにしても、そういう人たちが行われるということで、例えば、瀬田におふろカフェというのができて、そこで演劇やっています。あの演劇でもファンがおられます。いい人が来られたらファンも来るという。それはそうですね。

一つ何かをすることによって人が集まってくるという、そのことを考えた中で、このイベントをたくさん書いていますけれども、こんなことは誰が企画してどんなことをしていくかということ。そしてもう一つは、今回出ていたのですが、一つの施設を利用することで料金と、三つぐらい施設あると一つ利用すると割引がついて三つ行けますよとかということも一つ大事だと思います。どこかに書いていました。このことも把握、実行していただいて、美術館に行ったらまた他も行けるし、当初から図書館に行くだけですけれども、いろんなところにも行けるよとか、アリーナも行けると、こっちのあれも行けるというようなことも、一つ提案していただいた。その中で、短期・中長期、言葉のような文言、将来像の中に五つありますけれども、その中で、ある程度の期日を決めていただいて、それに沿ってサービスをしていくということも大事かと思っております。

よろしくお願ひします。

【村上委員長】

ありがとうございます。

ハード整備の面でも、縦軸の整備も課題であるということと、それからその施設間連携ということで、単体で動くのではなくて、複数の施設間での連動性、割引などそういったものも必要ではないかというのを、期日を決めて実施するのが重要だという御指摘をいただきました。

仲川さんから先ほど御指摘いただいたのが、実際にこの将来像を動かしていく上で、誰がという意味で、その地域、特に自治会を当てにするようなことはしないようにという、地域というのは誰かといったときに様々な企業さんもそうですし、施設もそうですし、様々な主体がありますので、そういったところみんなで一緒に継続性の問題を考えていかなければいけないということですね。

私が一つ静岡の方で事例として承知しているのが、遊水地の多面的な利用です。市内の80団体以上の参画を得て行われているということがあります。その事務局の方にお話を聞きますと、まさにあの仲川さんがおっしゃるとおり、地域の方も草刈りなども疲弊されて無理だとおっしゃっておられました。その代わり、どなたに声をかけられたかという、市内の自動車販売会社さんとか、建設業関係の会社さんとか、あるいはいろいろな福祉関係、医療施設関係の病院や施設の方々、あるいはいろいろなNPO法人、市民団体の方々に声をかけられて、それぞれの団体さんがそれぞれの目的でもってその遊水地に関わっておられて、結果としてかなりの参画を得られたという事例もございますので、主体の参画というのはいかに大事かという御指摘をいただいたと思います。

あと併せて、ビワイチは確かに今、かなり焦点が当たっているのですが、これももう少し歩くということ、特にここは山が近いということで、ウォーキング・トレッキングコースを設定してその拠点にしてはどうかという新しいご提案もいただきました。

他に何か御指摘や御意見等はございますか？ はい、仲川さんお願いいたします。

【仲川委員】

発信がなかなかできてないということ为先ほどから何回も皆さん方がおっしゃっておられます。発信が上手な人はおられますね。私ははじめYouTuberってなんやこいつなどと思っていたのですが、YouTuberにしてもTikTokerとかにしても、3分とか5分、あるいは1分の間で自分の言いたいことをスパッと表現できる、あるいは画像で表現できるというような能力を持った人間ですね。

こういう人たちを利用するというのも一つの方法かなと。あのネームバリューもある人たちを使うことが一つの方法になるのではないかなと思いますので、大津市、草津市あるいは県のコマーシャルをする時に、こういった人たちの力を借りれば、そういった人たちの力を借りるということは非常に大事なことと思います。

それから清水さんからも質問がありました。私にも分かりません。短期、中長期、何のことかと。1が短期で、実は中長期というようなことははっきりと出来ていない。だからスケジュールが全く組めていない。短期で組んで、中長期で組んでも、短期がどれくらいか分からないのに、スケジュール組んでも何の意味もないと私は思うんですね。

ただ、短期だったら3年、2年とか5年とかきちっと決めていただいて、そのスケジュール、タイムスケジュールをずっとこうやっていただくというようなことだったら、誰でも分かるのですが、そこができてないとスケジュールを組んでも絵に描いた餅になってしまうので、この辺りは短期とはどのくらいかということをしかりと明示してほしいと思います。

【村上委員長】

ありがとうございます。

重要な御指摘をいただいたのですが、情報発信については、SNSの発信あるいはインフルエンサーを活用するというのもアイデアだと。要は情報発信をするのだけど、これを誰に発信するかですね、これはあくまでも未来を考えるので、未来を担うのは誰かということ。現在はまだTikTokしか見ない子供たちというようなことかと思えます。ある意味本当に極論すればそういうことになると思えます。そういう世代に届かない情報発信は、そもそも意味がないのではという御指摘であったと理解しました。

また、アクションプラン、行動計画を立てる上で、重要なのはいつまでに実現するか。というのは、短期といってもその年限がわからないと結局はそれが故に終わってしまう可能性がある。短期は何年先であるか、それぞれの行動計画が何年後に実現するかという年限をきっちり示した方がいいのではないかという御提案をいただきました。

ありがとうございます。他にいかがでしょうか？かなり御意見は出尽くしたかとは思いますが。

私から一点。皆様からいただいた御意見の中で、特に非常に強く意見を各委員の皆様からいただいたのが、これを誰がいつまでにどうやって具体的に実現するかという、この将来ビジョンを絵に描いた餅にしないようにするという点を皆様強調しておられたように思っています。

そのために必要なのが、この4番の推進体制、「び文会議」。しっかりとした制度の仕組みの設計が鍵だと私は考えております。これまでのいろいろなまちづくりのレベルなどを見ていると、特に県で事務局を責任持ってされるということではないのです。そういったことが得意な方、しっかりと声を出して、そういう第三者的な企業さんに依頼されるもよし、あるいはそういう組織を立ち上げられる、あるいは組織の中で事務局を一人しっかりと方を雇用して、今日いただいたことを遍く見ていただいて、きちんと整理実行できる方をまずお迎えするようなことも考えていいのかなと。それで責任を持って誰がやる、こ

の方がやるというのは明確になるので、それでしっかりこのエリアの連携を考えていただける組織なり意志と人材が必要なのではないかと、これをぜひ申し上げたいと、皆様の御意見を拝聴して思いました。

それと最後に、これは参考程度で、ただし重要なことだと思います。この概要資料2ページの左下の「び文会議の目指す姿」のところで、オープンでフラットな自律的な組織というのが書いてあるのですが、そもそもこのび文都市やび文会議そのものもそういうものの一つであろうと考えられます。今政府がデジタル庁を中心にWeb3.0研究会DAOというのを立ち上げ、実際に去年の夏から実際に政府がこの自立分散型の組織を作る形はすごく矛盾して聞こえるのですが、実験されています。その実情も公表されていると思いますし、今後いろんな知見が蓄積されると思いますね。ぜひ未来志向で、こういった政府の実験的な思考、将来の組織のあり方を逐一情報収集されて、ぜひ今回の制度設計にも活かしていただけないのではないかと思います。

と言いますのも、新しい組織のあり方には、ただ単に組織として議論し、実際にアクションを起こしていくにとどまらず、一つは何かというと、関わり人口を増やせるということがあります。何かというと、リアルに関わる人に加えて、Web3.0の時代には、バーチャルで関わってくる人も、あの旧山古志村などは800人の村民に対して、800人のバーチャル村民が実際に村を訪れるという事態になっています。こういうことも将来的に起きます。

PDCAサイクルの指標として、関わる人数を増やすこともできる。もう一つは、先ほどのアンケートの中で、フリーパスを他のところでも使えるとよいという話があったのですが、例えば、こういう将来的にNFT、そして今回まちのコインとかも使われる話ですけど、これをうまく活用すると、組織の中でいろいろと施設を訪れると何コインもらえとか、施設の中の公園の草刈りに参加するとこれだけコインがもらえて、そのコインでバスに乗れ、次のバスケットの試合には、無料でお食事ができるみたいなこともできるようになると、そういったことも、今、政府を挙げて実験されていますので、ぜひ情報収集されて、制度設計に活かされてはいかがでしょうかというのを最後に御意見申し上げたいと思います。

他に皆様から何か最後にございますか？いかがでしょうか？はい、清水さんよろしくお願いいいたします。

【清水委員】

仲川さんも言うておられたけど、コロナとかいろんな問題があった中で、なかなか人が集まってこないという状況もございますが、本当に収まっていかないのが現状です。

この春からですか、マスクを外してもいいようなことはまだ決まっていませんけど、今回審議をされるようございます。

中国ですね、春節ですか、今日は22万人ぐらい動くというような話でございますが、つい最近ですけども、近くのレストランにバス2台で来られています。

気にせずに来られる人たちが多くですけども、この中から今まで引きこもりとかずっとあったのですが、今、段々慣れてこられて外に出る方たちも多くなってまいりましたので、やはりそのことを踏まえて、何かを提案していく、何かをすることによって、人が集まるといことが大事だと思うので、コロナがインフルエンザ的な扱いに今度変わっていくと、人の移動も多くなっていくのではないかと思います。

そんなことを踏まえた中で、せっかく議論したことを、この左下に書いている「びわこ文化公園都市が目指す姿」の中にも書いていますように、誰かプロ的な層ということも大事ですが、絵に描いた餅にならないような取組をやっていただきたいと思います。

【村上委員長】

はい、ありがとうございます。

やはり絵に描いた餅にしないで、これを確実にその実施していくということで、できれば各委員の皆様が感じられるのは、ビジョンを作ったけど、今後どうしていくのかというのが、皆様の関心が非常に高いと思いますので、その点も踏まえてこのビジョン検討委員会が終わるまでに、ぜひ整理をしていただいて、今後の実施計画、行動計画、そういうものを具体的に描いて、少なくとも委員の皆さんにも共有いただき、これでいいかということも返していただきたいということ、やはり情報発信ですね、これ県のホームページでちょっと公開するだけじゃなくて、ぜひこの発信の仕方を工夫していただくようお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか？よろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。

それでは、いただいた御意見に基づきまして、最終仕上げということで、こちらのビジョンを取りまとめていただき、今日いただいた御意見を反映させた案を委員の皆さんにもう一度回覧していただくタイミング等、そういう時期的なことも含め、今後進めてよろしいでしょうか？

【事務局(松田主席参事)】

今日、本日3回目の委員会ということで、委員会として開催するのは本日が最後になります。今日いただきました御意見、耳の痛い御意見、多々ございました。それを含めまして今日の資料4になりますか、ビジョンの案をさらに改定します。

予定としましては、最終決定をするのが、2月に「施設連携協議会」、来年度から「び文会議」と名称を変えますが、「施設連携協議会」で最終決定させていただき予定です。今日の御意見いただいた分をさらに踏まえまして案を、できれば2月の下旬ぐらいに、各委員の皆様にお送りさせていただきます。

また、そこでお気づきの点がございましたら、コメントいただきまして、2月下旬ぐらいになるとと思いますが、「施設連携協議会」で最終案という形で諮りまして、県の議会報告と

か、そういうプロセスを踏まえて、最終決定を3月の年度末までにさせていただくと、そういうスケジュールでいこうかと思います。

【清水委員】

資料ですけれども、確かにいろいろ検討していただいているのですが、1週間経ったら家に送ってもらった資料と変わってしまうこととかあるんですね。ある程度決まったものをお示しいただかないと、1週間前と今日の資料では、この一番上の概要等の経緯が逆になったりとか、真ん中の赤い「びわこ文化公園都市未来創造会議」は、この辺の色がついたり、何かいろいろ変わってくる。1週間経ってないうちに前もらったのと変わっているようなところあります。どう見たらいいかわからなくなります。最終的にきちんと整理できた分をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【築地委員】

今、おっしゃったことで、ちょっと気になってツツコミを入れてしまいたくなったのですが、この「施設連携協議会」が名称変更して、「び文会議」になる言い方をされていたんですけど、私はそれだとあかんと思います。

要するに「び文会議」なるものが持つべき機能は、やはりビジョンを作り出したり、共有したりそれぞれそれぞれの主体が、主体的に動き出すということを作っていくといけないわけですね。そういう意味では何て言いましょうか、立場がそうなので、そのポジションにたまたまいるのでやってきましたっていう人がいくら集まってもしょうがないです。

やはり、それぞれの社長さんクラスで、そうなれば大学では学長とかそういった人たちが集まって、本当に今問題なのかということをしっかり理解してもらって、行動を決めて判断して、決断して、下にやらせるという集団でないと、物が動かないと思います。特に、今後、交通事業者とか周辺商業施設とかプロスポーツチームとかというものを入れるという前提であれば、そういった人たちからはやはり社長さんクラスに来てもらわないといけないと思います。

【村上委員長】

ありがとうございます。

これは何か将来ビジョン2.0完成報告会でお披露目みたいな、そういう場は設けられないですか。いかがでしょう、あるいはそこに三日月知事も来られるとか。

【事務局(松田主席参事)】

もう資料を作るのでいっぱいでしたので、具体的には考えていませんが、せっかく委員の皆さんから御意見いただいて、こういう改訂版ビジョンが出来たということは、やはり

仲川委員さんをはじめ、皆様から御指摘ありましたように、PRはこういうのをやっているというのはきっかけ作り、そういう意味も含めまして、お披露目の場というのは必要だと思っておりますので、できれば3月にさせていただければということで、事務局として覚悟、今決めました。よろしくお願いします。

【村上委員長】

すいません、私の発言は悪ノリしただけです。築地委員から、すぐに受け止められなきゃいけないというのはおっしゃるとおりで、責任を持った方々がしっかりとした会議体を形成するということですね。

オーソライズなどの後、自律分散でこんなことやりたいと自由意志で手を挙げられる団体さんも排除せずに、ウェルカムでゆるい会議体で、外部から入りたい人だけだと、どうしても動かないですね。

そこはきちっと意思決定できるポジションの方に、しっかりと集まっていただく、ちゃんとオーソライズできる会議体として設けるべきだという、私もさきほど申し上げました制度設計ですね、この組織のところはぜひ専門家の方のアドバイスをいただきながら、ぜひしっかりと書き込んでいただければと思いますので、そのところはこの1週間でこのビジョンの中にとどこまで盛り込めるか。

ビジョンには、そこを課題として挙げていただいて、その先、いつまでにその制度設計やって、いつまで組織をこういう形で立ち上げるということまで書き込んでいただくとか、そういう必要があらうかと思っておりますので、御検討お願いいたします。

ということで、本当に大変有意義なお時間となりまして、様々な議論いただきました。ありがとうございます。

それでは、先ほどご説明いただきましたように、最終的には現在の「施設連携協議会」でこのビジョンは最終決定をされるということですが、議事はこれで終わったと認識しております。

それでは、本日の議事は以上ですので、事務局にお返しいたします。

これが最後となりますが、皆様の御協力に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

(3)閉会 滋賀県総合企画部 平岩理事